

違いを共に生きる 社会の実現を、 めざし続ける

愛知淑徳大学

学長 五島 幸一



2024年(令和6年)、愛知淑徳大学の母胎となる愛知淑徳学園が創立120周年を迎え、大学もまた開学50周年という節目の年を迎えました。1975年(昭和50年)、国文学科と英文学科の二学科からなる文学部(定員二百名)一学部の単科大学で出発しました。50年後の現在、大学は12学部14学科16専攻を擁する総合大学にまで発展しました。

「伝統は、ちどまならない。」という学園の教育姿勢のもと、常に進化する姿勢を保ち続け、急速な時代の変化を見据え、次代を担う若い世代の意識を視野に入れながら、学部・学科の改組に取り組み、新しい分野の学部・学科を意欲的に立ち上げてきました。時代の変遷とともに、大学教育には社会からの要請も変わってきています。

多様性を重んじる現代社会にとつて、本学が掲げている「違いを共に生きる」(Embracing Diversity)は、まさしく多様性を認め、具現化している教育理念です。2025年度入試から、外国をルーツに持つ学生、それと言葉・文化が異なる海外の学生たちを受け入れるためのグローバル入試を始めました。大学の国際化をめぐるのは、全学的に開かれた海外の提携大学への留学をはじめ、海外の大学からも学生がやってきています。星が丘

キャンパス内にはグローバルラウンジが設置され、海外の学生との交流を楽しんでいる本学生の姿があります。

「違いを共に生きる」という理念を具体化しているテーマとして「地域に根ざし、世界に開く」があります。本学のコミュニケーション・コラボレーションセンターでは、学生がボランティア活動を通じて、地域社会や企業と交流を深めています。

学園創立120周年記念事業として、2025年度から新たに「建築学部」と「教育学部」を開設しました。建築学部は創造表現学部から独立し、新たな学部として出発しました。「建築・まちづくり専攻」と「住居・インテリアデザイン専攻」の2専攻があり、人と環境の関わりを考えます。これまで建築設計、まちづくりなどの分野では、卒業生が活躍しており、これからも楽しみです。

また、教育学部教育学科は文学部から独立し、初等教育、中等教育における教員の養成に力を入れます。これまで、愛知県をはじめ、東海地方の中学校、高等学校に多くの教員を輩出してきており、これからも教育現場の課題に 대응することのできる教員の養成に力を注ぎます。

今後新たな大学像を模索しながら改革・改善に臨んでまいります。お見守りください。